

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

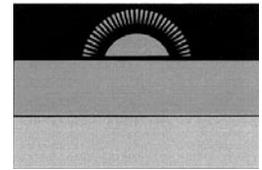
編集・発行：日本マラウイ協会  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付  
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269  
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>  
E-mail [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

### 【マラウイ共和国】

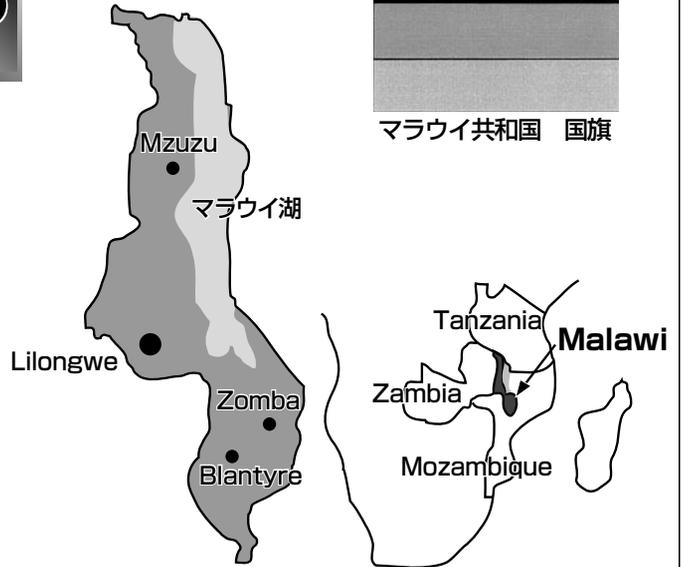
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)  
人口：1120 万人 (2004 年世界銀行)、首都：リロンゲウェ  
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
政体：共和制、大統領：ビング・ワ・ムタリカ  
為替レート：US\$1 = MK 144.759 (9 月 5 日現在)  
MK 1 = 0.80401 円 (9 月 5 日現在)

### 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：267 人 (9 月 5 日現在)



マラウイ共和国 国旗

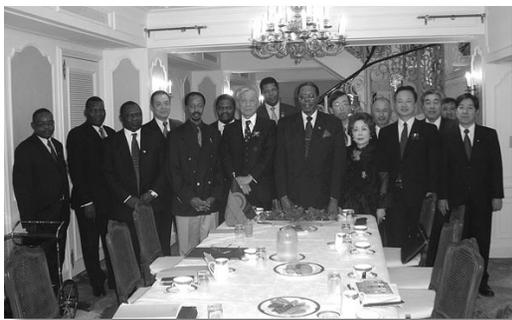


### ニュース マラウイ大統領、日本マラウイ協会役員らと接見

マラウイのビング・ワ・ムタリカ大統領が、バキリ・ムルジ前大統領に次いで 2 人目の公式実務訪問賓客として 2006 年 3 月 14 日來日した。

大統領は到着した日の夜早々に、都内のホテルで日本マラウイ協会の数原孝憲会長 (元青年海外協力隊事務局長) および同会役員青年海外協力隊マラウイ OB らと接見した。同 OB らは貝塚光宗 専務理事 (46-1)、姫野靖征 理事 (46-2)、山村俊之 理事 (47-1)、吉田均 理事 (52-1 後)、上田秀篤 理事 (53-2 後)、郡昭治 理事 (55-2) と竹谷稔子 事務長の 7 名。接見にはマラウイの外務大臣、自治大臣、駐日マラウイ大使、宮下正明 駐マラウイ大使らが同席した。

まず、数原会長から出席の OB 役員らを紹介し、今回の接見に感謝の意を述べると共に、この 35 年間にわたる協力隊員受け入れに対する同国政府の様々な配慮・協力で感謝の意を伝えた。そして、当会が帰国協力隊員を中心にマラウイと日本の友好促進、架け橋となるべく活動を展開しており、国情紹介誌やマラウイ旅行ガイドブック、チェワ語辞典などの発行や、駐日マラウイ大使館と協力してマラウイを日本国内に PR する活動を進めていることを紹介した。



▲ムタリカ大統領を囲んで記念写真

これに対し、ムタリカ大統領は青年海外協力隊員の様々な分野での活動を高く評価すると共に、遠くマラウイから離れた日本にこのような組織が存在すること自体に驚きを示された。そして帰国後も両国間の相互理解・親善等の活動を展開している当会に対し謝意を表明された。また、マラウイにも当会のカウンターパートとなるべく「マラウイ-日本協会」のような組織の設立を検討したいと述べられた。

また、大統領は変わりつつあるマラウイの政治、経済、社会の現状を丁寧に説明し、帰国後の OB・OG 達に対し、是非マラウイを再訪して変化を見て欲しいとのメッセージを贈られた。

接見は 1 時間あまりにわたり、最後に大統領を囲んで記念撮影を行い終了した。なお、この接見の様子はマラウイ現地時間で同日夜のテレビマラウイのニュースで、また翌朝の MBC ラジオのニュースでも東京特派員発のリポートとして放送された。

### ニュース 第 24 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 24 回通常総会が 2006 年 4 月 23 日 (日) 15:00 から、東京・渋谷区の JICA (国際協力機構) 広尾で開かれた。

第 1 号議案では平成 17 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、グローバルフェスタ 2005 参加、マラウイ独立 41 周年記念国情セミナー/シマを食べる会 (懇親会) 開催など、平成 17 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。

第 2 号議案の平成 18 年度事業計画と予算案では、以下を特記事項とし、基本的に前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。

- 在日マラウイ人との交流活動を前年度より前向きに行う。
- 国情セミナーおよびシマを食べる会は、例年以上の人に来てもらえるよう努める。
- 会費の回収率向上に努める。
- 第 5 回マラウイウォームハートプロジェクトを進める。申請の受付締切日は 6 月 30 日、9 月 30 日、12 月 31 日を予定する (早期に案件が確定した場合は 9 月 30 日、12 月 31 日締切の募集は設定しない)。

第 3 号議案の NPO 法人化に関する件では、今後、JOCA (青年海外協力協会) が別の形でアフリカ全部の団体での NPO 化を考えているので、JOCA からの話を待ち、様子を見ることとした。

第 4 号議案の会員データ管理規定に関する件では、管理規約案が示された。

第 1~4 号議案は質疑応答の後、議長が一同に諮ったところ満場一致で承認された。会員データ管理規定は案どおり平成 18 年 4 月 24 日から施行することになった。



▲総会の様子

## イベント 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では2006年7月22日(土)、マラウイ独立42周年を記念して、JICA 広尾で国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後2時から、駐日マラウイ大使 Mr. Roosevelt L. Gondwe が約1時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。

午後3時からは、玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Gondwe 大使と数原会長が献花した後、元 JICA マラウイ事務所調整員の郡昭治氏より、マラウイ在任中に亡くなった12名の隊員の名前が読み上げられ、全員で1分間の黙祷を行った。その後、会場を1階のレストラン「カフェ・フロンティア」へ移し「シマを食べる会」を行った。



▲慰霊碑前で

今回の行事に参加された JOCV (青年海外協力隊) 平成18年度2次隊候補生の平田暢子さん(青少年活動)と平成17年度2次隊の野谷愛隊員(理数科教師)のお母様である野谷さち子さんからの寄稿を下に掲載する。

### 平成18年度2次隊候補生 平田暢子

私がマラウイという名を知ったのは、協力隊を通してだった。協力隊合格通知に記載されていた聞いたこともないその国名は、私に不安と驚きを与えた。

実は、私は今年末に、マラウイに派遣される予定の協力隊候補生である。自分の派遣予定国がマラウイということを知って以来、少しずつマラウイに関する情報を集め、その中で運良くマラウイ協会の方と知り合い、「シマを食べる会」について教えて頂いた。マラウイについての情報を集める中で、何度も「シマ」という言葉を見聞きし、自分なりにその味を想像していたが、派遣前にその味を知ることが出来るとは思ってみなかった。喜んで参加させて頂いた。



▲シマを食べながら懇談

当日は、国情セミナー、物故隊員への献花・黙祷後、シマを食べる会が行われた。初めて口にしたシマは大変美味しく、マラウイが今までよりも身近なものに感じられた。先輩隊員OB/OGの方々がごく自然に手でシマを召し上がっているのを拝見し、大変驚くと同時に、私も帰国後シマを食べる会に参加した際には、先輩方と同様に手で食べ

られるようになっていたと思った。

シマを食べる会では、シマを頂く機会だけではなく、諸先輩方と出会い、色々なお話を伺える機会にも恵まれ、それが何よりも自分にとって有益だった。私が生まれる以前から、諸先輩方がマラウイの地で歴史を築いてこられたからこそ、今、私がマラウイに行く機会に恵まれたのだと思う。また、協力隊時代に一生懸命活動され、マラウイを愛しているからこそ、皆さんが何年経ってもこのように集えるのだと感じた。



▲記念集合写真

マラウイという国を知った時、私の中には不安と驚きしかなかった。しかし、今では人生におけるマラウイとの不思議な縁に感謝している。人生何事も無駄はなく、全ては自分にとって必要な出会いであると感じている。これからの私には出会いしかない。その出会いを一つ一つ大切に、マラウイ人と共に生きるという姿勢のもと、学び、楽しみながら訓練を受け、マラウイの地で活動したいと思う。

### 隊員家族 野谷さち子

JICA 広尾でシマを食べる会に初めて参加させてもらいました。

娘は平成17年度2次隊の理数科教師としてマラウイに赴任しております野谷愛です。娘からシマのことはよく聞いておりましたのでとても楽しみでした。

トウモロコシの粉を練って作られたシマはもちりとして和菓子の「うしろろ」のような食感で、とっても美味しかったです。淡泊な味ですのでもちりでも食べられて飽きがこない味でした。



▲野谷さんと Gondwe 大使

娘から赴任先をマラウイと聞いたとき、聞いたことのない国、どんな国なのかまったくわかりませんでした。とても不安でした。それから1年、マラウイに関する事柄に目や耳を傾ける生活を続けております。とてもアフリカに関心を持つようになりました。シマを食べる会に参加後、視察の旅の申し込みをしました。マラウイ行くのがとても楽しみです。マラウイはこれから一生私達親子の共通の話題になる事でしょう。

最後にこの企画をして下さった皆様方に感謝いたします。

## 国情セミナー要旨

■日時:2006年7月22日(土)14:00～15:00

■場所:JICA 広尾 地球広場2階セミナールーム

■講師:駐日マラウイ大使

H.E. Mr. Roosevelt L. Gondwe

Bingu wa Mutharika 新大統領は前回の選挙により自分の政党の国会議員を擁すようになったため法案を通しやすくなったと思う。

マラウイでは2004年～2005年の干ばつの被害が大きかった。食糧と食糧輸送だけで多額の歳出を強いられた。日本は国連世界食糧計画(WFP)を通じて支援してくれた。政府は種子と肥料を補助しており、今年は十分雨が降れば、一部のディストリクトを除いて問題ない見込みだ。

政府は食糧危機回避以上のことを考えている。ひとつは灌漑事業である。この分野でも日本政府は支援してくれている。

村落部での安全な水の供給は現在60%程度の達成であるが、90%～95%を目指して事業を進めている。灌漑と同様に、この分野でも日本政府は支援してくれている。

道路網はほとんど全てのディストリクトを覆っている。例外的に未整備のディストリクトについては近々事業を始める予定である。

水上交通についてはマラウイ湖の定期船が老朽化しており更新が望まれている。またマラウイは内陸国であるが、シレ川とザンベジ川を使えばインド洋につながる。現在、シレ/ザンベジ水上輸送事業の実現妥当性の調査を行っている。

村落開発については一村一品運動を進めている。一村一品運動に焦点をあてて村落部に町を創出しようとしており、政府は公共施設の整備に取り組んでいる。一村一品運動の下には数多くの具体的な事業があり、すでに産品が登録されている。鉱物資源の調査も進みつつある。

貿易では紅茶、砂糖、タバコが主要輸出品目であるが、タバコの価格は下落しており、今期には大きな輸出額は見込めそうにない。そのため農民はタバコ以外の作物に転換しようとしている。

政府の計画は、経済成長を通じて貧困を削減しようとするものであり、政府の役割のひとつは経済成長の環境を整備することである。

女性に関する取り組みとして、女性による小規模な起業を支援するための支援策がある。

大きな課題としてエイズがあるが、現在感染率は14%で落ち着いている。政府の主な役割のひとつとしては、教育、情報普及の強化がある。今後は感染率を低下させることができよう。

### 【質問への回答】

マラウイからの輸出入の交通手段につき、マラウイは内陸国であるためタンザニア(ダルエスサラム)、モザンビーク、南アフリカなどを經由することになる。空輸より他の国を經由した陸運のほうが安い。

一村一品運動の産品で日本に輸出できそうなものとしては、コーヒー、マカデミアナッツ、香辛料、織雑製品、紅茶などがあげられる。マラウイをカバーするジェットロ(日本貿易振興機構)の事務所も開設された。ジェットロはライオンなどの置物に興味を持っている。大きなものより小さなものの方がよいようだ。

マラウイの人口は現在約1千200万人である。例えば26年前には約600万人であった。この人口増に対し、灌漑事業などによって対応しようとしている。雨水だけでは不十分である。一方、現在の約3%の人口増加率は高すぎるとも思っている。

以上

## マラウイを舞台にした初の児童文学 「ヘブンショップ」好評発売中!

2006年4月17日 初版第1刷発行  
A5版 277ページ 1,600円 + 税 (1,680円)  
ISBN4-7902-3163-1

作者: デボラ・エリス  
訳者: さくまゆみこ  
挿絵: 齊藤木綿子  
協力: 日本マラウイ協会  
発行所: 鈴木出版株式会社  
〒113-0021  
東京都文京区本駒込 6-4-21  
TEL 03-3947-5161  
(編集部直通)  
FAX 03-3947-5144



▲表紙

マラウイを舞台にした初の日本語訳による児童文学作品が出版された。鈴木出版(株)の海外児童文学シリーズの1つで、原書はカナダ人

女性作家デボラ・エリスの作。マラウイ、ザンビアに長期にわたり滞在し取材を重ねた。日本マラウイ協会は挿絵の参考となる写真の提供、人名・地名・チェワ語の日本語表記、日本語訳の一部などで協力した。読者対象は10～15歳だが、大人も十分鑑賞できる。

この作品はエイスのかかえる根深い問題や差別をリアルに伝えるとともに、ひとりの少女がたくましく成長していく姿を描いた作品である。マラウイ滞り経験者にとっては懐かしいプランタイア、リロングウェ、ムランジェの町並みなどが描写されており、クチェクチェビール、チペロニ毛布などの商品名、チェワ語の単語も出てくる。

【あらすじ】主人公ピンディは13歳の女の子。プランタイアで棺屋を営む父と兄、姉の4人暮らし。母親は亡くなっていない。ピンディはプランタイアのラジオで一番人気のあるドラマに声優として出演していて、町ではちょっとした有名人。ファンレターももらうし、有名私立校に通っている。ところが父親がエイスで亡くな

ると、姉はフィアンセから婚約破棄され、ピンディ・兄姉とも引き取られた親戚から冷遇され、学校へも行けなくなり、兄妹はばらばらになる。最終的にピンディは、ムランジェでエイス孤児たちと一緒に生活している祖母のところにたどり着く。そこで子どもたちの世話をし生活していくうちに、思いやりと優しさを身につけ、真に生きる意味を見出す。そして兄姉と再会。兄妹で棺屋を始め、なんとか生きていこうと誓う。

### 【購入方法】

最寄りの書店の他、次の方法でも購入できる。

● 鈴木出版のホームページ

<http://www.suzuki-syuppan.co.jp/>

で、「海外児童文学シリーズ」のページ(2006.9.5現在トップページ)から右下の「ヘブンショップ」の表紙をクリックすると拡大される。その下部からONLINESHOPPINGへ進む。

● AMAZON CO.JOのホームページ

<http://www.amazon.co.jp/>

で「ヘブンショップ」を検索すると出てくるので、購入に進む

## ディマクコンダ CD/DVD 発売!

平成15年度2次隊の山田耕平OB(村落開発普及員)がマラウイで活動中に制作し歌い、同国で大ヒットとなったエイス撲滅・予防啓発ソング「ディマクコンダ(Ndimakukonda)」のCD/DVDが、日本でも8月30日にエピック・レコードから発売された。

同OBのマラウイでの活動を報じたTBSテレビのブロードキャスター(2月4日放送)が各方面で大きな反響を呼び、その後もNHKBS1テレビ「今日の世界」、教育テレビ「福祉ネットワーク」などでも取り上げられ、遂に日本での発売となったもの。同OBは売上げの一部をマラウ

イでVCT(Voluntary Counseling and Test:自発的カウンセリングとHIV検査)施設の建設資金に充てたいとしている。

同OBはマラウイでの活動中に日本マラウイ協会が支援する「マラウイ・ウォームハート・プロジェクト」でカロンガ地区マウエンベ村にあるムクングウェ小学校に手押しポンプ付き井戸を建設した(本紙第35号に報告書掲載、[http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/WHP4\\_yamada.html](http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/WHP4_yamada.html) 参照)



▲ディマクコンダのCD/DVDジャケット

お求めは最寄りのCDショップで!

## レポート アフリカン・フェスタ 2006

2006年5月20・21日(土・日)の2日間、「アフリカン・フェスタ2006」というイベントが、東京・日比谷公園において開催された。これは外務省主催、東京都、千代田区及び在京アフリカ各国大使館の後援によるもの。

アフリカ問題への国際的関心が高まる中、日本政府は、アフリカ開発会議(TICAD)プロセスを通じて、アフリカ開発問題に一層積極的に取り組んでおり、「アフリカン・フェスタ」は、アフリカに対する幅広い層の理解と支持の増進を目的に開催されたもの。

当日はマダガスカル・ギタリストであるデ・ガリ氏によるコンサート、NHK総合「プロジェクトX」のメインキャスターだった国井雅比古氏による「プロジェクトAfrica～アフリカの国づくり物語」、在京アフリカ大使館によるアフリカや観光を紹介するプログラム、在京アフリカ大使館やNGOによるアフリカ物産品の展示やアフリカ料理の販売が行われた。

マラウイ大使館の展示テントでは、チテンジ、ムズコーヒー、チョンペティー、マカダミアナッツ、観光パンフレット・ポスターなどの展示、観光プロモーションビデオの放映が行われた。また、飲食テントでは、マンダジを販売した。

日本マラウイ協会は、マラウイ大使館の展示テントで、来場者に対してマラウイについての質問に答えるなどの協力をしたほか、児童文学「ヘブンショップ」の販売を行った。

同フェスタは2日間で約68,500名が訪れ、各

コーナーも大変な盛況ぶり、会場全体が賑わっていた。



▲マラウイ大使館の展示テント

## レポート アフリカン・フェア

2006年9月2～4日(土～月)の3日間、東京・お台場の東京ファッションタウン(TFT)ビル西館TFTホールで「アフリカン・フェア」が開催された。これは経済産業省とジェトロが主催で、開発途上国「一村一品」キャンペーンの一環として、外務省と(社)アフリカ協会の後援で開催されたもの。

このフェアでは、日本とアフリカのファッションを融合させたファッションショー「アフリカン・コレクション in Tokyo」を始め、ダンス、ミュージック、トークショーなどを通じてアフリカの多様な文化を紹介するイベント、アフリカの国々の産品を購入できるアフリカン・マーケット、本場アフリカの味を楽しめるアフリカ

ン・フードコートなどが用意された。

国別の展示ではアフリカの41カ国がブースを構え、各国の魅力ある産品・観光資料などの展示を通じて、日本企業に新たなビジネスチャンスを提供した。マラウイのブースではマラウイ大使館がこのイベントのために2人の専門家を本国から呼び、マラウイ・ジン、チリ・ソース、パオパブオイル、紅茶、コーヒー、ナッツ、宝石製品、衣料品、民芸品、観光ポスター・パンフレットなどを展示した。

マラウイのブースは正面入り口をはいってすぐのところと配置されたため、来場者も多く、初日には小泉総理大臣も訪れた。その模様は当日のNHK国際放送「NHKワールドテレビ」の英語ニュースで全世界に向けて放送された。



▲マラウイの展示ブース

## 寄稿

## 家族の思い

## 隊員家族 濱野明美



▲濱野さん

午前3時、目覚しが鳴った。息子との会話の時間だ。電話は2週間ぶりかな。現地は午後8時、丁度就寝前だ。電話の向こうは相変わらず元気な話し振りで、ほっとした。

そしてパソコンを開いて、同じマラウイの大場隊員のブログにコメントをくれた。

先日は山田耕平くんの歌がテレビから流れていた。日本マラウイ協会主催の会に参加してマラウイ大使にもご挨拶できた。シマも食べた。新聞や雑誌にアフリカの記事があるとすぐ目が行く。一年前までは考えられない日々だ。

我が家のサプライズは、未っ子が突然、「ジャイカでマラウイへ行く」と言い出してから始まった。この息子は幼稚園から大学までサッカー一筋、引っ込み思案でこれから「社会人としてやっていけるかな」なんて心配していたのに。どうということ!

「マラウイってどこ?」「ジャイカって何?」「何しに行くの?」「アフリカにあるマラウイという国で青年協力隊活動をするんだ。」「エエエー!!!」

サプライズは続く。「何やるの?」「エイズ予防活動だよ。」そう言われたって!エイズなんてわかるの? 女の子と付き合った事もないのに。

マラウイに赴任した当初は毎日が心配でした

が、日本マラウイ協会の方々やOB・OGにお会いしているうち、だんだん心配も薄らいでいきました。むしろこの際、マラウイやJICAのことを勉強しようという気になって来ました。今まで遠いマラウイがとて近くなる国になりました。

そしてあと1年半後には息子も任務を果たして、元気で一回り大きくなって帰ってくることを楽しみにしています。

【筆者は平成17年度2次隊 濱野彰吾隊員(青少年活動)のお母様】

## レポート

最近放送された  
マラウイ関係テレビ番組

- (1) 2006.2.4 22:00～の1部(11分)  
TBS ブロードキャスター「山田耕平隊員～ディマクコンダ」
- (2) 2006.3.2 10:55～11:00(5分)  
NHK 総合 世界遺産100「不思議な子育て～マラウイ湖国立公園」
- (3) 2006.4.28 23:15～の一部(15分)  
NHK BS1 きょうの世界「マラウイのエイズをなくしたい～山田耕平OB」
- (4) 2006.5.8 22:00～の一部(5分)  
NHK 総合 NHKスペシャル・プラネットアース「淡水に命あふれる～マラウイ湖」
- (5) 2006.5.22 08:00～の1部(28分)  
2006.5.23 08:00～の1部(30分)  
フジTV とくダネ! FNSチャリティキャンペーン「エイズとたたかう子供たち アフリカ南部マラウイからの報告」
- (6) 2006.6.12 13:20～13:49(29分)  
NHK教育 福祉ネットワーク～40年を迎えた

## 青年海外協力隊

- (7) 2006.8.26 22:00～の一部(12分)  
TBS ブロードキャスター「山田耕平OBの活動」
- (8) 2006.9.3 10:40～の一部(9分)  
NHK教育地上デジタルマルチ編成3ch  
What's on Japan「山田耕平OBの活動」
- (9) 2006.9.3 17:30～17:57(27分)  
フジTV739(CS放送)  
「エイズとたたかう子供たち アフリカ南部マラウイからの報告」

## 《日本マラウイ協会》

平成18年3月～平成18年8月  
主な活動内容

- (1) [3月14日] マラウイ大統領接見  
(1面の記事参照)
- (2) [3月29日] 機関誌KWACHA  
第35号発行
- (3) [4月23日] 第24回通常総会開催  
(1面の記事参照)
- (4) [5月20日] アフリカン・フェスタ協力  
(3面の記事参照)
- (5) [7月22日] 国情セミナー・シマを食べる会開催(2面の記事参照)



## 日本マラウイ協会情報



## ■「グローバルフェスタ2006」、出展協力者募集

毎年恒例の「グローバルフェスタ」が、来る9月30日(土)、10月1日(日)の2日間、東京・日比谷公園で開かれます。

日本マラウイ協会は今年もこのイベントに出展し、マラウイの紹介や民芸品の販売などを計画しています。当日のスタッフを募集していますので、お手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mailへご連絡をお願いします。

## ■KWACHAバックナンバー

当会は今年2月26日に創立23周年を迎えましたが、創立時の機関紙KWACHA第1号から第36号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

## ■日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェワ語辞典 統合改訂版(2000年7月発行)  
B5版 186ページ 1部 1,500円(送料290円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版 108ページ 1部 1,200円(送料210円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版 40ページ 1部 1,000円(送料210円)

送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を1冊ずつご注文の場合は次のとおりです。

- (1)+(2) = 340円
- (2)+(3) = 290円
- (1)+(3) = 340円
- (1)+(2)+(3) = 340円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ずE-mail、あるいは電話/FAXで「xxxx xx冊希望」と当会宛連絡してください。

## ■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

## ■日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJICA広尾地球ひろば会議室)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

## ■日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付

日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@mc.neweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.neweb.ne.jp)

三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

郵便振替 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。